

大腿骨頭すべり症について

→ X脚で観察中の13歳、持続的なひざ痛が出現

Q.13歳の息子ですが、X脚と診断を受け、経過観察中です。

最近、ひざの痛みが出てきて「進行していて重度」と言われました。進行を止める方法はあるのでしょうか。息子は慎重170cmで、体重80kg、運動部に入っています。

A.13歳のお子様でX脚の程度が強いということですが、この時期はX脚が原因で膝に痛みが生ずることはほとんどありません。したがって膝の痛みに関して、他に原因がないかももう少し調べてみる必要があります。

この時期の膝の痛みには、注意しなければならない病気があります。身長が急激に伸びる成長期（10歳から15歳）の男子に多い大腿骨頭すべり症という病気です。これは大腿骨のつけねの部分である大腿骨骨端（こったん）部が、その下の成長軟骨線を境として後内方にすべり落ちる病気です。股関節の病気ですが、大腿や膝が痛いということで始まることが多いので注意が必要です。また肥満やX脚のお子様が多いことが報告されています。

今回のご質問の内容のみでは、はっきりしない点も多いですが、お子様は13歳と成長期で、170cm、80Kgと体重が多く、またX脚とのことですので、この大腿骨頭すべり症も念頭におき、股関節の診察も必要かと思えます。

この大腿骨頭すべり症は、以前は欧米に多く、日本には少ないと言われていましたが、こどもの生活や食習慣が欧米化してきたためか、近年日本でも発症率が増加してきています。放置すれば、すべりが徐々に悪化し、股関節の動きが悪くなり、外向き歩行などの歩行障害が生ずるだけでなく、時には急激に悪化し、激痛とともに歩行困難となってしまうこともあります。

この病気は早期に正しく診断し、手術的に治療することが必要となりますので、専門医の受診をおすすめいたします。

あいち小児保健医療総合センター
整形外科部長 服部 義

【中日新聞「紙上診察室」2005年9月9日掲載】